

30amG-153

研究活動を促進する知的財産教育講座モデルの開発

○吉田 悦子¹, 尾崎 淳史¹, 青木 大也¹, 錦織 憲治¹, 青江 秀史^{1,2} (¹阪大知財セ, ²阪大院高司)

【目的】知的財産については、近年多くの諸施策が講じられ、日々の研究活動で生み出される知的財産においても、発明につながる成果を抽出し、知的財産として戦略的に活用できる知識を修得する実践的な知的財産教育の必要性が高まっている。そこで、次世代を担う学生に対してイノベーション創出に対応した実践的な知的財産講座の確立を目的とし、実態調査およびカリキュラム検討を行った。

【方法】国内の理工系学部を有する大学（100校以上）を対象に知的財産教育の現状調査を行い、知的財産講座の実施校および国内の特許公開件数上位校、第3次科学技術基本計画における重点4分野に属する10社を対象にヒアリングを行った。これらの調査において、研究活動と関連すると思われる項目の抽出とそれらをふまえた知的財産教育カリキュラムの検討を行い、検証講義を実施した。

【結果】各機関における知的財産教育への意識はいずれも高いながらも、具体的な取り組みを模索している傾向にあったことから、薬学をはじめとする理工系研究者に必要とされる知的財産教育の一端として、カリキュラムモデルを構築した。

